

北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）の改定について



ZERO CARBON
HOKKAIDO

- 令和3年3月「北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）」策定
長期目標である2050年「ゼロカーボン北海道」実現に向けた取組を開始



- 国内外の脱炭素に向けた動きの高まり、世界的な削減目標の引き上げ

- ✓ 令和3年4月 国が新たな温室効果ガス削減目標を表明
(2030年度に2013年度比46%削減)
- ✓ 令和3年6月 「地球温暖化対策推進法」が改正
- ✓ 令和3年10月 国が「地球温暖化対策計画」を5年ぶりに改定
- ✓ 令和3年10月 英国でCOP26開催。工業化以前と比べ気温上昇を1.5°C以内に抑える目標などが合意。

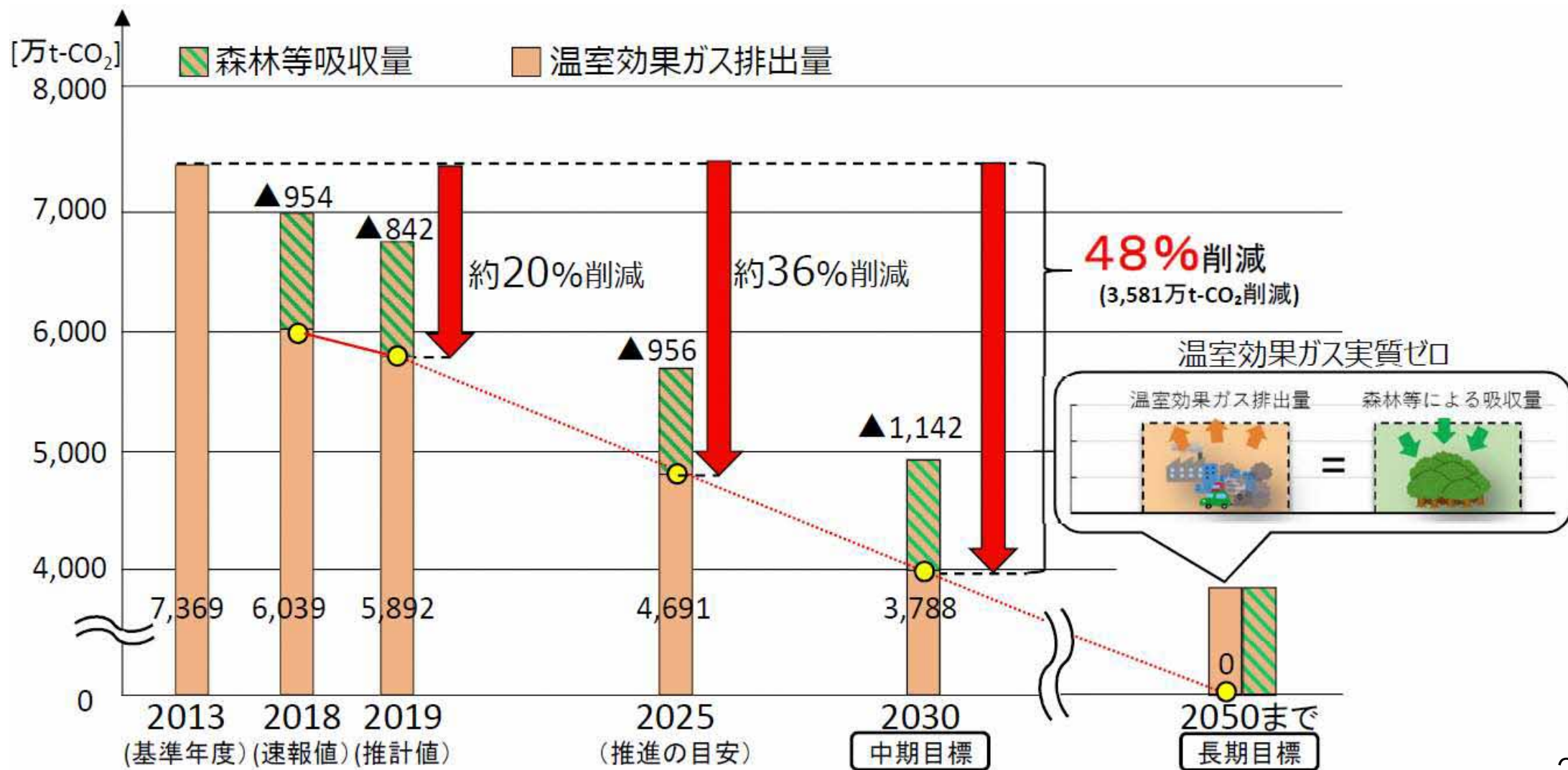


- 令和4年3月 「北海道温暖化対策推進計画（第3次）」改定

● 削減目標（中期目標（2030年度））の見直し

■ 前計画：2013年度比35%削減 ⇒ 48%削減に引き上げ

さらに、再生可能エネルギーの道外への移出、ブルーカーボンの検討など本道の強みを活かした取組により、国の気候変動対策に貢献していく。



● 重点的取組の追加・拡充

重点的に進める3つの取組「多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化」、「豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用」、「森林等の二酸化炭素吸収源の確保」の取組を追加・拡充し、道民や事業者、地域と共に積極的に脱炭素化を推進

取組の基本的な考え方

- 地域の脱炭素化と経済の活性化、レジリエンス向上の同時達成
- ゼロカーボンに向けた認識の共有、意識の醸成、ライフスタイルや事業活動等の脱炭素社会に向けた自発的転換の促進
- 再生可能エネルギーや森林など本道の豊かな地域資源を最大限活用
- 環境と経済が好循環するグリーン社会の構築

重点的に進める取組

多様な主体の協働による社会システムの脱炭素化

- ✓脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへ転換
- ✓地域の脱炭素化
- ✓交通・物流の脱炭素化
- ✓「グリーン×デジタル」の一体的な推進
- ✓ZEB,ZEHの普及など建築物の脱炭素化推進
- ✓持続可能な資源利用推進
- ✓革新的イノベーションによる創造
- ✓気候変動への適応

豊富な再生可能エネルギーの最大限の活用

- ✓地域特性を生かしたエネルギーの地産池消の展開
- ✓ポテンシャルの最大限活用に向けた関連産業の振興

森林等の二酸化炭素吸収源の確保

- ✓森林吸収源対策
- ✓農地土壌吸収源対策
- ✓都市緑化の推進
- ✓自然環境の保全
- ✓水産分野における取組

(1) 幅広い関係者との連携・協働

- ◆ 「ゼロカーボン北海道推進協議会」で意識の共有などを図り、主体的な取組と新たな連携・協働を生み出すとともに、同協議会や国のゼロカーボン北海道タスクフォース等と連携して、幅広く道民・事業者へ脱炭素の取組を呼びかけ
- ◆ ほっかいどう応援団会議等のネットワークを活用するなど官民連携の推進により、ゼロカーボンの取組への参画や協力を呼びかけ

(2) 庁内の推進体制

知事をトップとする「ゼロカーボン北海道推進本部」で、庁内の連携及び施策の調整を図り気候変動に関する施策を推進するとともに、振興局長を本部長とする「地方推進本部」に設置したゼロカーボン推進室で地域の実情に応じた取組を支援

(3) 計画の進捗評価

本計画に基づく措置及び施策の実施状況及び効果について、定期的に「北海道環境審議会」による評価を受け、その結果を公表するとともに、施策の見直し等に活用

(4) 計画の見直し

目標の達成状況、関連指標、個別対策・施策の進捗状況等の点検を毎年行い、PDCAサイクルを適切かつ効果的に回し、途中年度の状況も踏まえながら、必要に応じて適宜計画の見直しを検討



ZERO CARBON
HOKKAIDO